



昼休みに校庭で遊ぶ子どもたち（木風小学校）

# 九じろうの取材日記

サイエンス広場で遊ぼう！



1月29日、児童文化館の館外イベント「サイエンス広場で遊ぼう」が島瀬美術センターで開催されました。  
会場では、児童文化館の作品展示のほか、大型ロボットを実際にリモコン操作できる「大型ロボットと遊ぼう」（写真右）、科学実験を行う「サイエンスワークショップ」など、子どもたちの好奇心をかきたてるさまざまな催しがあり、人気を集めました。

触れて、作って、動かして！  
科学の楽しさを体感

科学実験「ヘリウムガスを吸って声を出してみよう」では、ヘリウムガスを吸うとなぜ声が変わるのか、その不思議に迫りました。ヘリウムガスを吸った子どもたちは、いつもより高くなった自分の声に大はしゃぎ。声が変わる原因は、実は空気中とヘリウムガス中の音の伝わる速さの違いにあります。子どもたちは、水道用ゴムホースを使った実験装置（写真左）で、ヘリウムガスを伝わる音の速さが空気を伝わる時よりも速いことを確認しました。



▷音が伝わる速さを実験する子どもたち



▷液体窒素で凍ったバラを握りつぶす松野さん

になる温度）がマイナス196度の液体窒素は、さまざまな物を一瞬で凍らせてしまいます。バナナは約20秒、バラの花なら2〜3秒で凍ります。参加者は、凍ったバナナで釘を打ったり、凍ったバラの花を手で握りつぶし、花びらが割れ落ちる様子を観察したりして、液体窒素の超低温の世界を体験しました。

液体窒素で凍ったバラの花を握った松野紗季さん（花高小4年）は、「バラが一瞬にして凍るのがすごかったです。学校でも理科の実験が好きです」と話しました。このほか、ステンレスボールに張った黒いビニールの上の塩を、声の振動で動かして模様を描く「声の形を見てみよう」や、合成洗濯のりとほう砂水を使ったスライム作りなど、参加者は実際に触れたり、作ったり、動かしたりして、科学の楽しさを体感しました。



▷声の振動で、ビニールの上の塩に模様を描く子どもたち

合成洗濯のりとほう砂水でスライムを作る参加者



◁光エネルギーで動く模型の電車を動かす参加者

イム作りなど、参加者は実際に触れたり、作ったり、動かしたりして、科学の楽しさを体感しました。

PUBLIC RELATIONS SASEBO

広報 No.664

# させぼ



広報させぼ 編集長「キューちゃん」

特集 教育都市佐世保の実現に向けて 2 ~ 5 p

今月の主な内容

異動シーズンの窓口利用、市町村合併など	6 ~ 9 p
市民の広場	10 ~ 11 p
イベント情報	12 ~ 13 p
歴史散歩、カレンダー、テレホンガイド	22 ~ 23 p
九じろうの取材日記	24 p



編集長から「一言」  
特集の取材で、小学校におじゃましました。子どもたちは、外で元気よく遊び、授業もしっかり受け、わたしにも気持ちよくあいさつをしてくれました。子どもたちのひたむきな姿を見て、「むしろわたしたち大人が、子どもたちから教わることがあるのでは」と思った取材でした。（K）



広報 させぼ

平成18年3月1日発行

佐世保市役所企画調整部秘書課広報係 TEL 0956-24-1111 FAX 25-2184 〒857-8585(市役所専用)長崎県佐世保市八幡町1-10 http://www.city.sasebo.nagasaki.jp 印刷/有限会社 日新堂印刷所

